

第24回対馬少年の主張大会最優秀作品

心を繋ぐ

豊玉中学校2年

わかまつ 若松 あおば 青波

どうして顔も見たことの無い人の曲で、言葉を交わしたこともない人の演奏で人は涙を流すのでしょうか。表現しなくても生きていけるのに、なぜこんなにたくさんの人が表現活動をするのでしょうか。うまく言葉にできる気がしなかったので、Z世代らしくチャットGPTに聞いてみました。彼はこう言っています。「感情を共有するため、伝統を伝えて、人々を繋ぐためです。」なるほど、機械の割に、私の疑問が終了してしまいそうなほどいい感じの回答です。基本的には同意なのですが、この回答を踏まえた上で、もう少し掘り下げて、自分の経験から考えてみようと思います。

夏休みに2台ピアノの発表会に出たときのことで。「2台ピアノ」は、文字通り2台のピアノを2人で弾くため、音数が多く、ダイナミックな演奏が特徴です。発表会が終わりに近づくにつれ、難易度の高い、豪華な演奏になっていき、一体「トリ」ではどうになってしまうのかと私はわくわくしていました。

最後の曲が始まりました。今までの派手で難解な曲とは一転して、1つ1つの音をぽつんぽつんと置いていくかのような、静かな旋律です。どんな超絶技巧が繰り広げられるのだろうと思っていた私は、少し驚きました。豊かで澄んだ響き、そして細い細い、絹糸のような音色。曲が進むにつれ、会場は水を打ったように静まりかえりました。全員が体全体で全てを聴き取ろうとしているかのようなでした。どちらがどの音を弾いているのかわからなくなるほど演奏者2人の心は1つになり、同じ世界を共有していました。聴いているうちに、自然と朝もやの中の、どこか切なく懐かしい田園風景が浮かんできて、私はその中に佇んでいました。そして私だけでなく、会場にいる人みんなが同じ世界を見ているような気がしました。今まで感じたことがなかった、演奏者、自分、会場との一体感。「人は共感することを求めている。」ということがピンと来なかったけれど、ああこういうことだったのかと、私はいつの間にか涙を流していました。会場のあちこちで鼻をすする音がして、最後は全員が割れんばかりの拍手を送っていました。

幼い頃は、人の演奏を聴いても感動するどころか、早く終わらないかなと思うこともしばしばありまし



た。けれども、ある程度人生経験を積んだ人ではどうでしょうか。演奏に感動して、もう一度聴きたいと思う人は、小さな子供よりも多いと思います。人は、人生を歩みながら、美しさや喜び、寂しさや悲しみを心の中に降り積もらせていきます。その心の中の風景を誰かと分かち合えた時、伝わってきた時、心が震えます。つまり私たちが感動と呼ぶものは人生の経験、共感と密接な関係があるのです。もちろん音楽に限った話ではないと思います。例えば絵や小説、ダンスなど、太古の昔から人は表現をしてきて、人間に必要な営みとして、人から人へと受け継いできました。

芸術は人生を豊かにし、孤独を癒やします。もっともっと感動したい、分かち合いたい。そして表現することの先にあるという、まだ見たことのない景色をこの目で確かめてみたい。それが私の夢です。今は表現者としてはあまりにも未熟ですが、多くの人と出会い、いろいろなことにチャレンジし、喜怒哀楽、たくさんの経験を積み重ねて、「私」という表現者を作り上げていきたいです。そして、いつか、自分の演奏や作品、表現を通じて、たくさんの人たちと心を通わせ合いたいです。仲間と繋がるために、私の未来へと繋げるために。

※原文のまま掲載

第24回対馬少年の主張大会結果

最優秀	豊玉中2年	若松 青波
優 秀	豆酡中2年	栗原 星花
優 良	雞知中2年	淵上 蒼甫
入 選	大船越中2年	濱崎 美桜
入 選	佐須奈中2年	須川 愛々
入 選	比田勝中2年	立川 夏海
入 選	久田中2年	杉原 星七
入 選	仁田中2年	糸瀬 虹汰
入 選	西部中2年	中村 花蓮
入 選	東部中1年	鍵本 汐里
入 選	厳原中2年	浅川 珂心

中学生人権作文発表

豊玉中3年	糸瀬 悠人	(敬称略)
-------	-------	-------